

年に1度の
番外研修!!

子どもの見立てと介入

～子どものつまずきやサインから考える支援～

講師：本田 恵子 先生（早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授）

日時：8月18日（日） 9 時～12 時

形式：早稲田大学中野国際コミュニティプラザ 及び ZOOM によるオンライン研修

第 2 回研修会は、本学会会長の本田恵子先生から、普段のお子さんの行動や発言から感じる「なぜ」を、見立てる機能（①身体機能・感覚統合②言語・認知機能③感情・社会性）を教わり、実際に演習形式で子どもたちの「なぜ」について見立てていきました。

具体的な「見立て」を行う前にまずは「事実（実際の行動や言動）」と「判断（観察者の主観や思い込み）」「伝聞（伝え聞いた情報）」の整理の重要性について学びました。これらが混同してしまわないために、情報の整理を行うこと、行動を客観的に記述すること、行動を機能で分類することが必要です。

本研修会では、事前に参加者の方からたくさんの「なぜ」が集められ、見立てる機能ポイントを学びながら本田先生が解説を行っていただきました。その視点を基にグループワークが進められました。



講師 本田恵子先生

○生活面における「なぜ？」

「周りを見ながら行動できないのはなぜ？」「幼児のトイレトレーニングがうまくいかないのはなぜ？」「学習しなくてはいけないのに、スマホから離れられないのはなぜ？」「決まった場所に物を整理できないのはなぜ？」などが寄せられました。

ある班では、「学校のルールや友達と関わり方などを理解しているのに、普段の行動に生かされないのはなぜ？」という疑問に対し、以下のような見立てが出されました（一部抜粋）。



会場の様子

身体機能・感覚統合	言語・認知	感情・社会
・衝動性が高くてやってしまう？ ・緊張が強く行動にうつせない？	・意味記憶○。エピソード記憶△？ ・そもそも困っていない？ ・メタ認知が弱い？	・わざとやらない？ ・注目行動になっている？ ・不安が高い？

○学習面における「なぜ？」



「知能検査は平均なのに、学習が身につかないのはなぜ?」「課題への拒否感が強く、単純な計算や視写のみ取り組むのはなぜ?」「2桁×2桁の暗算はできるけれど、文章題や関数などは完全に拒否なのはなぜ?」などが寄せられました。

ある班では、「音読はできるが、文章を読んで答えることが苦手なのはなぜ?」という疑問に対し、以下のような見立てが出されました(一部抜粋)。

身体機能・感覚統合	言語・認知	感情・社会
・読むことに精一杯? ・眼で文字を追いながら音に変えることと意味がつかない?	・文字から聞かれていること想像できない? ・WMの弱さ?	・間違えることへの不安? ・失敗体験がある?

○対人面における「なぜ？」

「トラブルがあった時に、親には言わないでほしいと言ってくるのはなぜ?」「事情を聴くときに、自分は悪くない!と話が進まないのはなぜ?」「気になる点が他の生徒違うのはなぜ?」など多くの「なぜ」が寄せられました。

ある班では、「2人なら話ができるのに、3人以上だとうまく話に入れないのはなぜ?」という疑問に対し、以下のような見立てが出されました(一部抜粋)。



身体機能・感覚統合	言語・認知	感情・社会
・会話に合わせて姿勢や視線を調整するのが苦手? ・相手の動きが気になってしまう?	・言いたいことを考えているうちに会話が進んでしまう? ・言葉の理解がゆっくり?	・過去にうまく話せなかったことがあり、緊張している? ・仲間入りのタイミングが難しい?

○参加者から(一部抜粋)

- ・「見立て」では心理面ばかり考えていましたが、認知面や脳の機能から考える方法を知ることができました。
- ・今まで漠然とした「見立て」をしていました。分類と理論、事例によってピンポイントで考えることができました。
- ・今回の研修資料はまさに、要所が凝縮された虎の巻だと感じました!初めてだった方々とブレイクアウトルームでお話しして、複数で見立てをすると、1人でするよりも多角的だし、そんな仲間が学校にいてくれたらいいのになあと思いました。

今回は、

令和6年度 実践報告会

日時:9月8日(日) 9時~12時 場所:ZOOMによるオンライン研修



- ・英語の学習法略指導による効果の検討ー認知特性に応じた指導を通してー
(中学1年生へのKABC-IIのアセスメントをもとに特性に応じた支援実践)
- ・生徒支援における諸問題についてー聴覚に障害のある生徒の受け入れの事例からー
(公立高等学校の特別支援教育校内支援体制づくりの実践)
- ・企業における体験学習の意義の検証ーアドベンチャー教育の実践を通してー
(企業組織や人間関係づくりの実践)

